

単元名: せかいのなかま

氏名: 廣部 功生	学校名: 京都市立小野小学校	
担当教科: 全教科	実践教科: 道徳、学級活動	
時間数: 3時間	対象学年: 2年	人数: 33人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標

他国の文化のよさを知り、他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。
多様な他者と関わるうえで自分にできることを考える。

【2】 単元の評価 規準

(ア) 知識・技能

心を通じ合わせるためには、必ずしもことばが必要でないことを理解している。

(イ) 思考・判断・表現

他国の人々や文化に親しみを持つことについて思いや考えを深めている。

(ウ) 主体的に学習に
取り組む態度

他国の人々や文化に親しもうとする気持ちを高めている。

【3】 単元設定の 理由

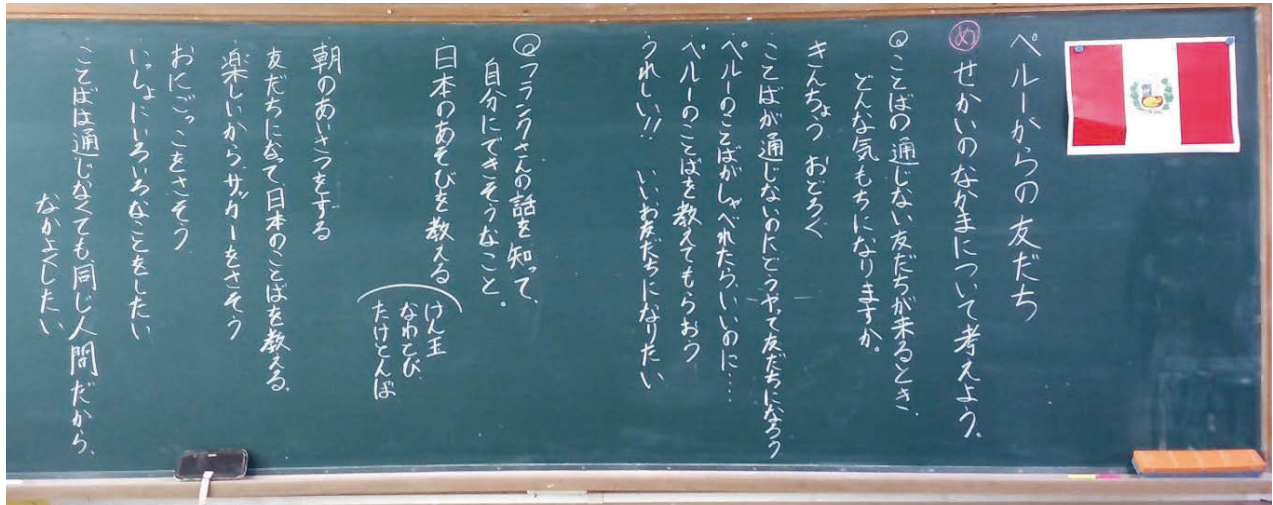
本学級の児童たちは、素直で人懐っこく、何事にも積極的に取り組もうとする姿が見られる。また、多くの児童が道徳の学習において、身近なことにに関して、自分の考えを深めたり、友だちとの交流を通して広めたりすることに喜びを感じている。同学年には、ネパール籍の児童が一人入籍しているが、当該児童のルーツやネパールに関して考える機会はなかった。そのため、ほとんどの児童は日本以外のことはおろか自身の住む地域以外のことについて全く知らない様子がみられる。これらのことから、自国と他国の違いを具体的に知っていたり、考えたりした経験もないと考えられる。

本単元では、今後の生活で世界を身近に感じ、自分事として物事をとらえることができるようにしていく。児童たちが身近に感じることを中心に日本とペルーの違いを紹介していく。その中で、日本の文化が外国で受け入れられていたり、根付いていたりすることや日本の生活の中にも外国から来たものがあることを知り、世界には様々な文化や場所、価値観があるということに気づかせたい。また、ペルーでの教師海外研修の同行通訳者であり、日本で育った背景のあるフランク・コルマさんの物語として小学生時代の実体験を紹介し、児童の視点から見て感じる困ったことや不安なことについて考え、多様な人と関わっていくことについて身近に感じるきっかけとしていきたい。

本単元を国際理解・国際親善の第一歩と捉えて、児童が「もっと外国のことを知りたい」「遠い国でも共通していることがある」など、他国の文化や人々に関わることの素晴らしさを感じ、「今すぐにではないけれど自分にできることはある」「誰かを救えるかもしれない」など、自分にも何かできるかもしれないと考えることができるようにしていく。

【4】展開計画(全3時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 道徳 本時	テーマ 外国からきた、日本語を話すことのできない友だちに自分ができるとは何かを考える。	①ペルーについて知る。 ②自分にできることを考える。	ワークシート パワーポイント
2 学級 活動	ことばのいらない遊びを考える。	①前時で考えたことを計画する。ALTのギボンズ先生と仲良くなるために、言葉のいらない遊びを考えて、準備する。	
3 学級 活動	考えた遊びをALTの先生と遊んでみる。	①計画したことを実践する。 前時で準備した言葉のいらない遊びを通して、交流する。 	
【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	1. ペルーについて知る。 ○ペルーはどんな国だと思いますか。	・見慣れない地図を提示することで、文化の違いに触れることができるようにする。 ・世界地図に色を塗ったり、スライドで紹介したりすることで、日本とペルーが遠く離れていることを感じることができるようにする。 ・現地の写真を見ることで、日本の生活と似ていることや違うことに気づけるようにする。	・ワークシート (世界地図) ・パワーポイント (ペルーの様子)
せかいの なかまについて 考えよう。			
展開 (25分)	2. フランクさんのペルーから日本にきた時の行動や気持ちに関する話を基に自分たちにできることを考える。 ○言葉の通じない友だちが来るとき、どんな気持ちになりますか。 ○フランクさんのことを知って、自分でできることはありますか。	・新しい友だちが来ることを想像することが難しい場合は、自分が言葉の通じないところに行くときどんな気持ちになるかを想像することができるようにする。 ・フランクさんの話を通して、言葉が通じなくても仲良くなれることに気づくことができるようにする。	・パワーポイント (フランクさんについて) ・ワークシート
まとめ (10分)	3. 振り返りを行う。	・同学年のネパール籍の児童との関わり方についても触れることで、文化の違いをより身近に感じることができるようにする。	

【授業実践の様子】



【本時の板書】



【授業の様子】

【6】本時の振り返り

まず、時間配分について、前半部分のペルーの紹介は10分想定だったが、20分弱の時間を要した。そのため、本時の道徳科として深めていきたい「フランクさんの資料を通して気持ちを考える」ところの時間が足りないように感じた。児童の反応や様子から、友だちを迎え入れる側とフランクさん側の二つの視点からどんな人でも自分たちと同じで不安を感じたり、仲良くなりたいなどの気持ちがあり、それらのような相手の気持ちを考えたりすることに関して、もっと深めることができたと感じる。

次に、授業の内容について、本時では実践ができなかったが、児童たちは現地に行っていないため、スペイン語のモデル映像を見たり、音声を聞いたりする時間を設けるなどして、異文化に実際に触れることを体験し、「どうしよう」といった不安を感じることで、より自分事として考えることができると考える。

また、導入で使用した世界地図は、自分の知っている世界との視点の違いに気づいている児童が数名いたため効果的であった。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

本時のワークシート

○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

どういふう。



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



○このほの 通じない友だちが 来るとき どんな気もちになりますか。

『ペルーからの 友だち』



初めは不安な気持ちが強かったが、
授業の中で遊びを通して仲良くなりたい思いをもつことができた。

あそび　せかいのなまについて考えよう。

『ペルーからの友だち』

○この本の通じない友だちが、来るべきどんな気もちになりますか。

びっくりする
 キーンちゃうする

○フランスの話を聞いて、自分にできそうなことはありますか。

いしよにあそぶ
 日本のあそびをあげる
 いしよに遊ぶはきはなす

あててくつて考えることが大切です。

今までの自分を思い出しながら、 自分の考えを詳しく書いてみる。考えを 書いてみて、考えることにしました。 「おもしろい自由にもできるかな」 考えがどんどん広がりました。	 △ △ △
--	-----------

せかいのなまについて考えよう。

『ペルーからの友だち』

○この本の通じない友だちが、来るべきどんな気もちになりますか。

わからなにかもしねた
 いけどペルーかうきたらう
 しかなない。

○フランスの話を聞いて、自分にできそうなことはありますか。

とてもだちになりにたいからペルー
 から来た人でもなかよくでさそう
 「あそびを」家にかえたらすぐ考え

あてについて、考えることが大切です。

今までの自分を思い出しながら、 自分の考えを詳しく書いてみる。考えを 書いてみて、考えることにしました。 「おもしろい自由にもできるかな」 考えがどんどん広がりました。	 △ △ △
--	-----------

また、このページのペルセウスについて考えてみよう。

せかいの なかまについて 考えよう。

「ペル」からの 友だち」

〇こぼしの 通じない友だちが 増えて、どんな気もちになりますか。

〇うららかなの 絵を描いて、自分にもうきょうなこぼしは ありますか。

「うららかなの 絵を描いて、自分にもうきょうなこぼしは ありますか。」

〇こぼしの 通じない友だちが 増えて、どんな気もちになりますか。

せかいの なかまについて 考えよう。

「ペル」からの 友だち」

〇こぼしの 通じない友だちが 増えて、どんな気もちになりますか。

〇うららかなの 絵を描いて、自分にもうきょうなこぼしは ありますか。

言葉は通じないが、同じ人間であるから仲良く遊びたい、日本に来たのだから文化を知ってほしいという思いをもつことができた。

単元まとめのふりかえり

⑤ ギボンズ先生は日本人であんなでいなくていいかな
 でした。だからなかなかなれなくて思う。
 それでいきなりそういってはいいいことばないかなをい
 したかった。

ふん ほんとにことはいい
 くらゐも楽しかった。

ギボンズ先生いとなか
 くなつたかと思ひます。うは
 ギボンズ先生がうれしそう
 豆食をしてたから自分も
 うれしくなりました。

ギボンズ先生(ALT)との交流では、実際に言葉が通じなくても仲良くなれることに気づいていた。
 また、自分の感情だけでなく、相手の様子を観察しながら活動することができていた。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

研修前より、児童にはペルーに行くことを伝えていたため、「ようやく話が聞ける!」とクラス全体が授業者の話に非常に高い関心を示していた。

また、単元の終末活動としてこれまでに数回関わりのあるALTとの交流を設定した。ALT交流に、児童は、ALTの先生が自分たちの準備した遊びの時に笑顔だった、うれしそうな顔をしていたという相手の様子を観察しながら、遊びを進めている様子を読み取れた。また、もっと相手を楽しませたいという思いを持つように変化が見られた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

実情として、大半の児童は、相手意識が薄く言葉の大切さや相手の立場などを考えない言動が多い。また、困っている人がいても「先生や他の人が何とかしてくれる。」と自分にはできることは何もないという思いをもっている児童が多くいる。このことから、世界のことなどまるで知らず「外国は全て英語。」と考えている児童もいた。

(授業後)

異文化を有する人だけでなく、身近な友だちに対しての相手意識が生まれてきた。特に、言葉による会話が成立しないALTとも仲良く楽しく遊ぶことができたのだから、言葉の通じる友だちとはもっと仲良くできるのではないかと感じている児童がいた。

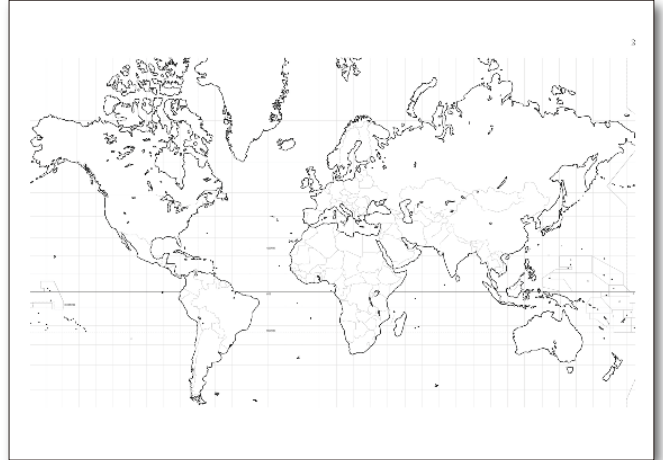
クラスの半数ほどの児童が文化の異なる外国について深く触れたり、考えたりすることが初めての中で、授業後には「ペルーに行きたい!」「もっと詳しく知りたい!」「本当に友だちになってみたい」と話していた。また、数名の児童の変化から、本単元の学習は外国の人だけではなくクラスの友だちなど、身近な人に対する関わりにも影響する様子が見られた。困っている人がいたら助けたいと考えて行動する様子を見ることができるようになった。自分にも何かできることはあって、それらは人のためになるかもしれないと思い始めたように感じる。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	後述の「2. 改善点」のような単元計画も事前に考えてはいたが、実践した第1時の道徳科の学習で初めてペルーの異文化に触れた児童がもった思いや考えを深めていきたいという思いから、3時間の単元に設定した。また、単元の終末活動を実際に見たこともない人との交流にすることは、2年生には具体的に想像し交流計画を立てるという点において難しいと感じた。具体的に想像できる人がいて初めて、その相手を意識できると考えた。そのため、これまでに少し関わりのあるALTとの交流を行った。 本時では、外国につながる児童がクラスにいるという設定において、自分ができることを考えるにあたり、視点を複数にするのか一つにするのかを迷った。時間の配分を考えると実践した発問で時間いっぱいであったため外国から新しい友だちが来るという受け入れる側の視点のみであったが、フランクさんの視点から考えることも、相手のことをより理解するという点では大切であると感じた。 さらに、写真を含む資料選びは非常に重要であることに気づいた。多くを知らない児童に対しては、写真は内容によっては、マイナスイメージを与えかねないためである。
2. 改善点	本時の道徳を3時間目として、単元計画を3時間ではなく5時間に変更することが検討できる。本時の事前学習でペルーに関する文化や実情を学び、事後学習で実際にALTとの交流などの体験をする単元構想とする。 第1時 学活 日本とペルーなどの世界を比べながら、文化の違いや共通点などのペルーの基礎知識に触れる。 第2時 学活 フォトランゲージまたは写真を使ったクイズを通してペルーに関して気づいたことを交流する。 第3時 道徳 本時で使用したフランクさんの資料を活用し、転校生として異文化のある国へ行く側と迎え入れる側の二つの視点から考えを深める。 第4時 学活 言葉の通じない人とも仲良くできる遊びを考え、計画する。 第5時 学活 実際にALTと遊びを通して交流する。 事前の2時間の学習で身の回りのものの多くが異文化からくることがや日本のものが異文化で親しまれていることへの理解が増し、さらに考えを深めることができると考える。
3. 成果が出た点	授業者の体験や実際にあった出来事を題材とすることで、ほとんどの児童が自分事として捉えることができた。また、児童たちは「世界は広く、知らないことはたくさんあるけれども、日本語を教えたい、困っている人を助けたい」などと自分にできることを考える機会となり、目的を達成することができた。
4. 備考	特になし

添付資料:使用した資料①

[ワークシート]

道とく せかいの なかまについて 考えよう。 『ペルーからの 友だち』 ○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。
○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。	○にの 通じない言葉を かきとめて、みんながわかる ようにしよう。



[パワーポイント]



添付資料:使用した資料②

[パワーポイント]



添付資料:使用した資料③

[パワーポイント]

